

西郷が愛した鰻温泉

温泉好きだった西郷さんは鰻温泉を愛した。西郷さんが置き土産として残したシャツ(襦袢)や、眺めてたであろうスメと呼ばれる蒸気が今も残されている。



平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ 指宿まるごと博物館実行委員会

時遊館COCCOはしむれ

住所 指宿市十二町2290 電話 0993-23-5100
http://www.city.ibusuki.lg.jp/marugoto/





1

鰻池

周囲約4km、最深部の深さ約60m。約6,400年前、池田湖とほぼ同時期に形成された火口湖である。藍色の湖水は伝説を彷彿させる趣をたたえている。



2

鰻の伝説

昔話によると、「その昔、鰻池の水を利用して水田を造ろうと池の畔で開削工事を始めたところ、池の底から大ウナギが現れ、開削した場所に横たわり水が流れ出るのを塞いでしまった。村人がこれを切り裂いたところ、大ウナギは片身のまま池に逃げそのまま生き続けた」と語り継がれている。



3

ウナツメ

鰻地区には、通称「地獄」といわれる噴気孔が多くある。1・5・9月の16日は、地獄の釜の蓋が開く日で、この日に行われる鰻の地蔵堂まつりが「ウナツメイ(鰻参り)」である。ウナツメイをすると、前の年に亡くなった人に会うことができるといわれ、家族や親戚、友人などがお参りする。特に1月16日は参詣人が多い。



4

鰻地蔵板碑

鰻地蔵板碑は、南北朝時代の元徳4年(1332)に造られ、山川石製で指宿市内の板碑として最も古いものである。表面には「地蔵菩薩」を示す梵字が刻まれている。年号が北朝のものであることから、この地が北朝側の勢力圏であったことを物語っている。



5

鰻の窯跡

鰻池へと続く傾斜地にある薩摩焼の登り窯では、明治時代後半に、苗代川からの移住者「伊集院どん」と呼ばれた夫婦が、焼き物を作っていたとの伝承がある。



6

西郷隆盛 逗留記念碑

『樺山資紀文書』によると、明治7年旧暦12月27日、西郷隆盛が突然、13頭の犬と侍従2人とともに鰻湖畔に泊まりに来た。西郷は約1ヶ月間滞在し、昼は開開岳辺りへ猟に出かけ、每晚温泉につかった。西郷逗留を記念して、昭和11年に記念碑が建てられた。



7

西郷隆盛シャツ

福村市左衛門宅に滞在していた西郷は、旧暦正月28日に、お礼に主人に犬を上げようとしたが、主人が犬は恐ろしいと断ったことから、着ていたフランネル製の福袴(シャツ)を脱ぎ置き土産として残したものの。



8

樺山資紀文書

明治40年、元海軍大将で西南戦争当時は熊本鎮台の参謀長を務めた樺山資紀は、指宿温泉に来た。その際に、福村市左衛門の妻と長男平左衛門が、西郷の逗留したことについて書き記して欲しいと樺山に依頼し、聞き書きしたもの。西郷が逗留先での生活の様子や江藤新平が訪れた際の状況等が記されている。



9

カオリン

鰻池の南側にある字大穴辺りでは、白薩摩焼の原料となるカオリン(白土)が採掘されていた。



平成29年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産総合活用推進事業)

お問い合わせ 指宿まるごと博物館実行委員会

時遊館COCCOはしむれ

住所 指宿市十二町2290
電話 0993-23-5100
<http://www.city.ibusuki.lg.jp/manugoto/>

